

第4回立川市第4次特別支援教育実施計画策定検討委員会

日 時：令和6年12月6日（金） 午後6時30分～午後8時00分

会 場：子ども未来センター201会議室

出 席：金子委員長、宮田副委員長、市川委員、兒玉委員、小松委員

佐藤委員、中村委員、堀田委員、柳ヶ瀬委員、山口委員、横山委員

事務局：齋藤教育部長、高橋教育支援課長

野津統括指導主事、山部教育支援課就学相談係長、

田中教育支援課教育相談係長、田原教育相談係主事

オブザーバー：守屋子ども家庭支援センター長、江頭保育振興担当課長、佐藤指導課長

○次第

1 立川市第4次特別支援教育実施計画（素案の案）について

2 今後のスケジュール（予定）について

○配布資料

資料1 立川市第4次特別支援教育実施計画（素案の案）【令和6年12月6日時点】

資料2 計画素案の案（令和6年11月6日時点）からの主な変更内容について

資料3 今後のスケジュール（予定）

1 立川市第4次特別支援教育実施計画（素案の案）について

○委員長

これより第4回立川市第4次特別支援教育実施計画策定検討委員会を開催させていただきます。

それでは、事務局より資料の確認をお願いいたします。

[教育支援課長より配布資料の確認]

○委員長

それでは、議事に入らせていただきます。

次第1の第4次特別支援教育実施計画（素案の案）について、まず事務局より説明をお願いいたします。

[教育支援課長より『立川市第4次特別支援教育実施計画（素案の案）』について説明]

○委員長

素案の案についてご意見いただけますでしょうか。

○A委員

取組項目6の校内体制のところで、主な取組にコーディネーター同士の連絡協議会というのを付け加えたほうが良いかと思いました。

○事務局・統括指導主事

今現在、コーディネーター連絡会という形で年2回行っているところです。ただ、教員に時間を取っていただくことで、忙しくなることもありますので、共有するという趣旨は踏まえつつ、取組のほうは検討させていただければと思っております。

○B委員

スクールソーシャルワーカーも不登校についてはいろいろ働きかけの立場として大きいと思いますが、学校教育基本振興計画の中で取り上げているため、こちらにはあえて載せず、不登校については教育相談として関わっていくという表現になったのでしょうか。

○事務局・教育支援課長

ご指摘のとおり、スクールソーシャルワーカーというのは、家庭環境等に働きかけていたところで、そういったことについては、学校教育振興基本計画のほうで示しております。

また、本計画の中では、教育相談員は児童・生徒のカウンセリングや心のケアを中心に取組み、家庭環境等に対する働きかけは、スクールソーシャルワーカーと連携していくというところで、不登校対策の役割を2つの計画で少し分けたような形で記載しています。

○B委員

取組項目14の主な取組で情報交換会を開催するという文言が、「教育センター等」となっ

ているので、その中にスクールソーシャルワーカーや関係各所が含まれるという解釈でよろしいでしょうか。

○事務局・教育支援課長

ご指摘のとおりでございます。

○副委員長

就学相談の支援シートの工夫というのがすごく議論になったと思います。入学した後の学校生活支援シートが、「現場で活用できる学校生活支援シートの作成と工夫」のように書いていただいたほうが良いかと感じましたので、ご検討いただければと思いました。

○OC委員

就学支援シートについては、東京都教育委員会のときに私も関わって作成いたしました、区市町村ごとの工夫ということで書式は決まっておりません。ぜひ今のご意見等いただいて、立川市独自のシートを作成していただけるとよいかと思います。

また、40ページ取組項目9の副籍制度による交流活動の推進ですが、副籍制度も共同及び交流学习になりますので、交流活動だけという言葉はないので、ぜひ交流及び共同学習ということで、文言をまとめたほうが一般的かと思います。

それと、特別支援学校と小・中学校の交流及び共同学習につきましては、副籍制度の交流及び共同学習のほかに、学校間の交流及び共同学習があります。本校では、南砂小学校と第二中学校と指定させていただいて、とてもよい交流及び共同学習ができております。そのため「副籍制度や学校間交流による交流及び共同学習の充実」にさせていただいて、「指定された学校間における特別支援学校と指定された市内小・中学校の交流及び共同学習の充実も進めます」と書いていただければよろしいかと思っております。

○OD委員

基本施策4、その取組項目7が同じ表現ですが、施策と取組項目というのは、違う表現のほうがいいかと思います。

○教育支援課長

この施策にぶら下がる取組項目1つということで、施策名と取組項目が同じ名称になっていますが、この取組については、重要であり、他の関連する施策に取組項目としてぶら下げるのではなく、施策レベルに引き上げた上で、展開していきたいと考えています。

○OD委員

趣旨は分かりました。

また、先ほど学校生活支援シートのこと等、そういうことも出たので、1つここでまた項目を設けて、何かもう一つ取組項目を増やしたほうがよいのではないのでしょうか。

○OB委員

支援シートの改定というのは予定をされているのでしょうか。

私も子ども2人分書いてまいりましたが、文章で書かなくてはいけないため、読む先生側も大変な作業になります。書く側も、細かく文章で書いておりますが、親は専門的なことを

知らないで、先生たちが本当に知りたいことかどうかというのは、親も不安なまま書いています。

そういうことを考えると、学校が知りたいような子どもの特性について、チェック項目にチェックを入れていくような形であったほうが、学校側も親側も書きやすい、読みやすいのではないかと思います。

○教育支援課長

就学支援シートについては、保育園や幼稚園などの方からも、様々なご意見をいただいているところです。まずは就学支援シートに記載する情報をどう整理をしていくのか、また将来的に電子化につなげていくのかといったところも含め、調査・研究をしています。

計画の中では、43ページの取組項目12の主な取組の中で、「引継ぎ方法等について研究・検討を進めます。」と記載しております。

○委員長

それでは、ほかに何かございますか。

もし今の時点でご意見がないようでしたら、先ほど申し上げたように、最後に一言ずつ感想でも、いただくことでよろしいでしょうか。

それでは、順番にお願いします。

○C委員

立川市の特別支援教育が、計画を基にどんどん進んでいただくことを期待しております。

この中で、自閉症・情緒障害学級の設置ということでの記載をいただいているということですが、もともと東京都は、自閉症・情緒障害学級が、市町村は幾つかあったのですが、23区ではほとんどない状態でした。自閉症・情緒障害の方が、通級指導だけでは改善されないお子さんもいるということで、教育委員会のほうから進めたらどうかというご意見を出して、区市町村のほうが進めていただいたことで、こういうのもどんどん進んできているということで感心いたしました。

また、就学支援シートも、私が東京都教育委員会にいたときに、こういうのをつくったらどうかということで関わらせていただいて、今、チェックリストという話もありましたが、チェックリストでやっている区市町村もあります。ただ、1つには、このシートでつなごうと思った趣旨は、保護者の思いと小学校前の療育機関もしくは保育所で支援をしていた方の思いをつなぐということで、やはり書きたいという方もおり、思いをつなぐということが重要だと思いまして、記述式のところも多くなったかと思います。

ただ、学校側のほうとしては、あまりにその思いが多く、思いは聞いたけれども、どこまでやれるのかというのは、実際問題あると思いますので、少しずつ修正していただいても1つの手かだと思います。やはり支援はつないでいくということが重要になっていると思いますので、そのような趣旨も踏まえて、進めてほしいと思います。

それと、私どもの立川学園のほうにつきましては、先ほどお話ししたとおり、学校間交流や副籍交流で、とても立川学園の児童・生徒が小・中学校の子どもと一緒に交流及び共同学

習する場面も設定していただいておりますので、ぜひそれも今後進めていただけると、学校としては嬉しいと思っております。

また、就学相談につきましては、聴覚障害の教育部門もございますし、知的障害の教育部門もございますので、立川市在住の方につきましては、丁寧な相談をしていただいて、本校への就学が適切であり、また保護者の方がご希望することであれば、私どものほうで支援をしていこうと思いますので、今後ともご協力とご支援をいただければと思っています。

OE委員

普段は出会わないような方たちのご意見を聞くことができ、本当に貴重な体験をさせていただいてありがとうございます。

また、本当に私たちの意見をうまく組み込んでくださり、本当に感心しました、ありがとうございました。

うちの娘も義務教育を出て、今度高校に進学することになるのですが、義務教育と同じような支援を受けられるのか、居場所や交流の場があるのか、なかなか情報が見えてこないというところが正直なところです。

そのため、そういったものを、今後私も情報収集していき、関わっていきたいと思っています。また機会があれば、ぜひ私も勉強のために参加したいと思っています。どうもありがとうございました。

OF委員

やはり会員のほうからも、要望として中学校の自閉症・情緒障害支援学級が必要ですよという意見が出てきていて、今回の計画に載せていただけるというのは、本当にうれしいことです。PTA等も以前とはまた違った形になりつつある中で、保護者の支援ということも大事なことだと思いますので、それについても、行政として連携や支援などつなげていくということが書いてあるのもうれしいことだと思います。

また就学支援シートは、文章を書くというのが保護者にとってみると負担ということは、すごくあちこちから聞こえてはくるので、またその辺のことも、これから検討してくださればと思います。どうもありがとうございました。

OG委員

とにかく基本方針の2、学校における指導の充実というところに目がいきがちでしたが、貴重な保護者の皆様のご意見をいただき、学校の役割の大きさをつくづく感じています。

特別支援教育というところでは、本校は知的固定、特別支援教室の拠点校という環境で、先生方の指導の充実の部分も含め、子どもたちに理解教育をするということをしております。ですから、通常級の子どもたちが、特別支援教室や知的固定級の子どもたちに対して、偏見を持つということは、学校の中ではありません。思っているのは保護者の方で、主人公は子どもなのに、そこになかなか視点がいかないという状況が学校であると思っています。

そのため、道徳授業地区公開講座でも、特別支援教育について講演会を行い、保護者への理解啓発の機会を設けました。やはり、保護者への啓発をどう学校として、子ども中心で考

えられる体制づくりをしていかなければと感じております。

今回の委員として参加させていただきまして、保護者からのご意見を小学校長会のほうでも共有していこうと思っております。ありがとうございました。

OB委員

私の子ども2人は立川市に育てられ、立川市の教育や子育て支援に本当に感謝しています。だからこそ、これから続いていく子育て世代や子どもたちに、もっと幸せになってほしいという思いで、たくさん意見を言わせていただきました。それにもかかわらず、本当にいろいろと意見を反映していただき、心より感謝申し上げます。

また、バリアフリー、医療児ケアのことも組み込んでくださったこの計画が、本当に有り難いものだなと感じた次第です。本当にありがとうございました。

OH委員

やはり子どものいろんなパターンがあって、それに一つ一つ対応していくというのは本当に難しいと思いますし、それぞれ親もいろんなパターンの方がいるので、そういう方たちと向き合っていくというのは本当に大変なことだと思いつつも、やはりこのような会議でいろいろな施策を決めて、適切に対応していくということの重大性を改めて感じました。

やはり指導をする人たちへのケアを考えつつ、よりよいものにしていただけると良いかと思いました。

これからも、自分の子どもたちが本当にお世話になりますけれども、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

OA委員

この会議に参加させていただいた経験を生かして、何か関われたらと思います。このような機会を設けていただきありがとうございました。

OD委員

この会を通して、やはり保護者の子どもへの思いというものを、先生方がきちっと受け止め、子ども一人一人を大切にすることというのを改めて強く感じました。

また、学校現場としては、これから情緒障害学級が中学校に設置されるということは喜ばしいことですが、いかに人材をつくっていくかが課題だと思っています。教員になってからも研修を受けたり、勉強する機会もあると思いますけれども、調べればすぐネットとかで分かるような環境で、保護者のほうがいろんなことを勉強していたりすることを考えると、本当に連絡を密にして連携をしていかなければならないと強く感じています。

なので、特別支援教育の理解を深め、子どもたちに多様な生き方を教えていくとともに、人材育成に力を入れていかなければと、改めてこの会を通して勉強させてもらいました。

最後に、立川市教育委員会の方々には、常に文書を掘り起こしていただき、次の準備をしていただいているということに感謝したいと思っております。誠にありがとうございました。

OI委員

様々な実態を聞いていて、一人一人悩みがあり、それぞれ違う悩みを抱えているお子さん

であったり、保護者の方だったりのことを考えると、何かすごく胸が痛くなる思いでしたが、どの子も楽しく成長していける立川市になるように、期待しています。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○副委員長

立川市第4次特別支援教育実施計画策定というのは非常に大事な、これから5年間で左右する委員会、ここに参加させていただいて、意見を言わせていただいたことに感謝申し上げます。

このように、この委員会の意見がこういう計画案に反映されるということを実感していますし、今回はたくさん意見を取り入れていただいた計画になったということに、感謝しております。

第3次も参加させていただいたという経緯があり、立川市が変化していくことを実感しています。私は地元で小児科をずっとやっていて、障害の有無、種類を問わず、そのお子さんたちのそばで私も成長させていただき、並走してきた人間として、委員会に参加させていただいて意見を言わせていただきました。

小児科医ではありますが、成人になったお子さんたちも時々拝見することが多いです。この特別支援教育から、今後教育支援センターという構想があると聞いておりますが、中学を卒業した後、高校・成人になって社会に参加をするまでを、教育という捉え方で、市としてスタンスを取っていただければというのが、私の強い願いです。ありがとうございました。

○委員長

特別支援教育がよりよく発展していき、その中で全ての子どもたちがそれぞれの力を発揮して成長していく。それは、障害があると言われていた子どもだけではなく、一般の子どもたちも含めて、発達していく、成長していく。それには社会の理解、特に保護者の方の理解というのは必要であり、とても大事だと思います。そういう意味で今回、この会の中で保護者のいろいろご意見をいただけたことはよかったと思います。

ぜひこの立川市においてもさらに、特別支援教育に関わる福祉も含めて、進めていただければと思います。

本日も幾つかご意見いただきまして、それによって、また何か少し変える部分があるかもしれません。それにつきましては、事務局とご相談しながら、委員長のほうにお任せいただければというふうに思います。よろしいでしょうか。

それでは、審議のほうはこれで終わらせていただきます。

本当にありがとうございました。

[教育支援課長より『今後のスケジュール』について説明]

○委員長

これもちまして、第4回立川市第4次特別支援教育実施計画策定検討委員会を終了いた

します。

ありがとうございました。